

2022 年度一般選抜試験問題

国 語

注 意 事 項

1 国語の問題冊子は22ページあり、問題は2問(解答番号は ~)である。問題冊子の白紙・空白の部分は下書きに使用してよい。

2 別に解答用紙が1枚ある。受験番号欄に受験番号5桁を記入し、マーク欄の該当するところをマークしなさい。

氏名を記入してはならない。なお、記入した受験番号やマークが誤っている場合や無記入の場合は、国語の試験が無効となる。

(例) 受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークして下さい。

受験番号				
0	0	6	0	3
<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
1	1	0	1	0
2	2	0	2	0
3	3	0	3	<input checked="" type="radio"/>
4	4	0	4	4
5	5	0	5	5
6	6	<input checked="" type="radio"/>	6	6
7	7	7	7	7
8	8	8	8	8
9	9	9	9	9

3 解答用紙に科目名を記入し、その科目コードをマークしなさい。

科目名	国 語	
<input type="radio"/> 英語	<input type="radio"/> 数学 I ・ 数学 A	<input type="radio"/> 適性能力試験
<input checked="" type="radio"/> 国語	<input type="radio"/> 生物基礎 ・ 生物	<input type="radio"/> 英語 ・ 国語
	<input type="radio"/> 化学基礎 ・ 化学	<input type="radio"/> 英語 ・ 数学
	<input type="radio"/> 物理基礎 ・ 物理	

注意事項の続きは本冊子の裏にあります

I 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

菌やウイルスの伝播^{でんぱ}は人と人との接触によって起きるが、経済発展に伴う都市化とグローバル化がその機会を飛躍的に増大させ、地球全体に広がった格好のバイ^アヨウ地をそれらに与える。すでに知られている病原菌やウイルスの変異、強毒化も、感染の機会を増やすグローバルな経済活動の亢進^{こうしん}によって促進される。このようにパンデミックも人類の経済活動の拡大の結果と考えることができ、その意味では人間の活動と自然との均衡の破れから生じる環境危機の一つと見ることができよう。

「戦後最大の危機」は、新しいウイルスの出現だけによってもたらされているのではない。現存する唯一のホモ属であり「知的生命」である現生人類（ホモ・サピエンス・サピエンス）は、生物的には同一の種で遺伝子的にはほとんど進化していないが、社会をつくることによって著しいセイ^イコウを取めた動物である。現生人類の社会の適応力は、以下の二点にあると言えるだろう。

①社会制度の柔軟性…人類の社会の仕組みは静的なものではなく、生物学の比喩を使って「有機的」秩序^Aと言われることもあるように、社会の実態は親密圏から国家、世界市場にいたる、公的、私的な社会関係がもつれ合って構成される複雑な構造となっている。精密機械のような現代社会の法律や規範は、社会そのものではない。それらは自然法則と違い、個人はそれらに反して行動することができる。規範は個人の行動を規律して行動の均衡状態をもたすが、そこから逸脱して個人が行動できることが、新しい秩序の源泉となる。社会関係は個人間の交渉によってイ^ウジされるとともに、新しく生み出される。そのため現生人類は、社会を自在に変化させて外部の脅威に対処することができる。②集合的学習による適応…知的生命である人類は、先を読んで自らの行動を変化させることができる。高度な知的能力を有する動物以外の、通常の生命の環境変動への適応は、遺伝子の変化とエピゲノムのメカニズムに基づいている。それは身体構造と行動の変異が自然選択によって継承され、新しい適応方法を生むというかたちで進行する。深刻な問題である抗生物質が効かない耐性菌の出現も、多量の抗生物質が存在する環境下で、たまたまそれに耐性を持った変異体が生き残り、ハン^エシヨクするという、自然選択のメカニズムに基づいている。それはまるで病原菌が意図的に行った合理的な進化のように見えるが、結果的にそうなっているだけである。その意味で通常の生命の適応は事後適応

であり、「**B**事後的な合理性」である。これに対して人類は結果を事前に予測し、それに対して自身の行動を変化させる「事前適応」の高い能力を持っていて、それが通常知性と呼ばれる。人類は知識に基づいて危機に対処したり、それを事前に感知して対応する。

このようにおそらく多くの危機を乗り越えて、ホモ属として唯一生き残ってきた現生人類の適応能力は、きわめて高いと考えられる。進化生物学者は気候変動や過度の土地利用による塩害や資源の枯渇、さらには火山^(オ)ファンカや疫病などを大きな制度や社会の崩壊の原因と考えることがあるが、そのような外的な脅威を社会の柔軟な変化や知識と技術によって平然と乗り切ったり、森林資源の枯渇を非再生エネルギーへの転換の契機とした初期近代経済などのように、それを飛躍のきっかけとした例も数多いのではないだろうか。環境危機が人類の適応の脅威となるのは、**i** だろう。

実際にグローバル経済、政治の困難な局面の下でパンデミックが生じたことが、それへの対応を非常に難しくしている。^{*1} 現在のところ有効な医学的対処法が発見されていないため、疫病の原因である個人間の物理的交渉を抑制する以外に方法がないが、それは経済活動を収縮させる。実体経済が堅調であり、高い成長率を安定して記録し、企業財務が健全で公的債務も小さいなど、市場経済が「健全」な状態にあるのなら、国際協調に基づき、一時的な経済の縮小を甘受^cして、戦時経済並みの大規模な財政出動を行い社会生活の崩壊を食い止めながら、効果的な対処法を見つけるまでの時間稼ぎをすることができる。そのような状態なら、治療法やワクチンなどの **I** 対策が完成すれば、経済の「V字回復」が可能となるだろう。

しかし現状はそうではない。実体経済面では前世紀末から西欧や日本で顕著になった先進工業国の低成長化と、それを補ってきた新興国中国・インド経済などの減速、貨幣経済の面では、世界金融制度がリーマン・ショックから回復できず、金融当局の自由経済としては異常な政策によって支えられてようやく機能している現実があり、世界経済の対応能力は制約を受けている。これに加えて右派ポピュリズム政権などがもたらす世界政治の混乱が、国際協調を難しくしている。そのためロックダウンなどのパンデミックに対する対策がつかない規模の不況を生むだけでなく、それを支える巨額の財政出動が、国家、企業の負債をさらに飛躍的に増大させて金融市場の **II** 性を高めるので、デフレ危機、インフレ危機の双方が想定できる。対応を誤れ

ば、この危機は文字通り戦後最大の危機に発展する可能性さえあるといえよう。

^D 経済学者は自らの誤りを忘れるのが得意である。かつてバブルの崩壊時には、实体经济が堅調なので大した問題ではないという議論が多く見られたが、そのあと日本は「失われた二〇年」に突入した。同様に高度経済成長末期には、資本主義はケインズ主義によって不況を克服したとして、社会学者・評論家の清水幾太郎までが巻きこまれて「未来学」という学問を提唱し、明るい未来を統計学の外挿法で^{*2}予測していた。ところが未来学の登場後ニクソンショック、オイルショックが続ぎ、先進工業国は低成長経済に入った。クリントン政権の好況時には、ITによる「第三の産業革命」によって景気循環は終わったというニュー・エコノミクスが台頭したが、直後にリーマン・ショックが襲い、世界大恐慌に匹敵するとさえ言われた金融危機が訪れた。金融当局の強力な介入によって好況の様相を呈している現在の金融市場については、MMT(現代貨幣理論)が提唱されている。経済学のミネルヴァの梟は^{*3}じつはアルバトロスであり、飛び立つ時は水平線上に嵐が迫っているのかもしれない。

かつて経済理論家・学史家でありつつエコノミストとして広く活躍した宮崎義一は、晩年にバブルの崩壊に着目し、当時の实体经济堅調論を批判して、「複合不況」^Eという概念を提唱し、危機の深刻さを警告した。製造業が中心となった高度経済成長の経験もあり、日本のエコノミストたちは概して産業を重視してきたが、宮崎は金融システムに内在する危機がそれとは独立して発現しつつ、实体经济の危機に結び付いていくと論じ、この両者に同時に対応する政策の必要を訴えた。その指摘がどれほどの受け手を持ったかはともかく、日本経済は「複合不況」に十分に対応できず、その後失われた年月を重ねることとなった。宮崎に倣い本稿では今回の「コロナ危機」を「複合危機」ととらえ、その意味を考えてみる。

地球温暖化を中心とした地球環境危機と、急激に増大する世界の人口に対応できないエネルギー、水や食料などの不足というグローバルな資源危機は、これらを本稿では合わせて地球環境・資源危機、あるいは地球環境危機と呼ぶが、現在のところその端緒が始まっているだけである。その本格的な被害は今世紀の中葉から顕著に表面化してくると予想されてきたが、具体的にどのような形態をとるのかわからなかった。今回のパンデミックにかかわる危機の観察からは、それが社会の内部の危機と環境からの外的脅威が結び付いて発展する「複合危機」として現れることがわかる。

農業経済では天候不順がもたらす飢饉きんなどの自然の脅威が、そのまま経済危機に結びつくことが多い。これに対して貨幣経済と工業社会は自然に直接①、自然からある程度②経済システムを創造した。市場メカニズムに基づく工業を主導的な部門とする近代経済についても、外的要因が大きく働く農業経済モデルに従って、W・S・ジェヴォンズのように自然（太陽活動の変化が気象異変をもたらして農業生産に打撃を与える）に危機の原因を求めた者もあるが、K・マルクス、J・A・シュンペーター、J・M・ケインズなど代表的な資本主義の批評者たちは、資本主義の危機は内因性であると考えた。世界恐慌のように、貨幣経済における需要と供給の不均衡の累積とその暴力的な調整のプロセスとして、近代経済の危機はシステムの内部から生まれる。現在の危機も先進工業国の实体经济と金融市場に一つの要因を持つ内因性である。パンデミックはこの状況下にある世界経済を襲っている。このように地球環境危機は、外因性の自然の脅威が、内因性の危機によって②化し、適応力を弱めた社会を襲うという形で、外因と内因が輻輳かくそうし合う複合危機^Fとして現れると考えられる。

（長尾伸二「複合危機と資本主義の未来」による）

（注）^{*1} 現在のところ——この文章は、二〇二〇年八月に発行された雑誌に掲載されたものである。

^{*2} 外挿法——分かっている数値データをもとに、データの範囲外の数値を予測する方法。

^{*3} ミネルヴァの梟はじつはアルバトロスであり——欧米において古来、梟は知恵の象徴、アルバトロス（アホウドリ）は

不吉の象徴とされてきた。ミネルヴァは知恵をつかさどるローマ神話の女神で梟とともに描かれることが多い。

問1 傍線部(ア)～(オ)に該当する漢字を含むものを、次の各群の a～e の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

5

1

(ア) バイヨウ

1

- a 入場券のテンバイを禁じる
- b 感染症をバイカイする虫
- c 損害バイシヨウ金を支払う
- d ニュウバイの時期を迎える
- e サイバイ漁業に転換する

(イ) セイコウ

2

- a コウザイ相半はする評価
- b コウガク心が豊かな若者
- c 物理学をセンコウする
- d 犯人のコウミヨウな手口
- e 学問の進歩にコウケンする

(ウ) イジ

3

- a 応募要件のイサイを伝える
- b 明治イシンの経緯を学ぶ
- c 芸術は人間の尊いエイイだ
- d 先輩にイケイの念を抱く
- e 会社に残るようイリユウする

(エ)

ハンシヨク

4

- a 大会の記念にシヨクジュ式を行う
- b キヨシヨクを廃し、質素に暮らす
- c 将来をシヨクボウされている青年
- d 新興国がシヨクサン興業に努める
- e 疑惑をフツシヨクすべく会見する

(オ)

フンカ

5

- a 巨大な岩をフンサイする
- b 監督が選手をフンキさせる
- c あの発表はフンパンものだ
- d コフンの埋葬者を同定する
- e 隣国とフンソウが勃発する

問2

傍線部A「『有機的』秩序と言われることもある」とあるが、どのような点が「有機的」であるというのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

6

- a 生物個体が外的危機に対処する機能を備えているのと同様に、人類社会が外部の脅威への対処法を備えている点。
- b 社会規範から逸脱することが可能であることと、逸脱後の新しい秩序の形成が社会を変化させてきたという点。
- c 人類の社会の仕組みが、常に均衡状態にあるわけではなく、外部の脅威に影響されることで変化を重ねている点。
- d 人類社会が、様々な位相の社会関係の複合的な構成体であり、それらが相互に影響し合って変化し続けている点。
- e 人類社会は精密機械のように強固ではなく、周囲の環境に適応し続けてきた生物のような柔軟性を備えている点。

問3 傍線部B「事後的な合理性」とあるが、どのようなことか。その具体的な説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

7

- a 人類が作った抗生物質でも死なない耐性菌が生じるように、生物進化は環境変化に適應する形で起きるということ。
- b 生物の進化は人類の種々の適應のように急激でなく、ある程度の時間が経過しないと説明ができないということ。
- c 環境に偶然適應した生物が生き残った結果から遡ると、この変異が道理にかなっているように見えるということ。
- d 生物の歴史を振り返ってみると、滅亡した種の数が環境變動に適切に対応した種の数を上回っているということ。
- e 知性を備えていない生物の環境變動への対応は、適切ではあっても必然的に變動の発生後に行われるということ。

問4 空欄

i

に入る言葉として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

8

- a 社会の適應力が衰退した時に外的危機が訪れるため
- b 従来の知見が役に立たない危機が訪れてしまった時
- c 現生人類に蓄積された経験からするとまれな出来事
- d 新しい菌やウイルスの伝播の問題に限ったことではない
- e 脅威であることが「事後的」に決まるといよいよ例

問5 傍線部Cの意味として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

9

- a 逆に利用してしまい
- b 大ごとと捉えないで
- c 逆らわずに対応して
- d 積極的に評価して
- e 好機だと理解して

問6 空欄

I

II

い。なお、二つある

II

には同じ語が入る。

I

10

II

11

に入る語として最も適当なものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | |
|----|---|-----|
| I | a | 経済的 |
| II | a | 蓋然 |
| | b | 簡易的 |
| | b | 脆弱 |
| | c | 強制的 |
| | c | 互換 |
| | d | 革新的 |
| | d | 不謬 |
| | e | 抜本的 |
| | e | 流動 |

問7 傍線部D「経済学者は自らの誤りを忘れるのが得意」とあるが、これについて次の問いに答えよ。

(1) 「自らの誤りを忘れるのが得意」に関して、「前人が陥ったのと同じ失敗を後人がする」という意味である次の言葉の空欄に入る漢字として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

12

同じ

を踏む

- a 畔あぜ b 踏鞴たたら c 鞅てつ d 藁わら e 筵むしろ

(2) 筆者がここで言う、「経済学者は自らの誤りを忘れる」とはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

13

- a 世界各国に経済危機の勃発と解決の事例があるのにその共有を怠り、経済危機が歴史的に繰り返されていること。
b 实体经济の危機を金融制度の改革で乗り越えはするが、その改革が不完全なため経済危機が何度も起きていること。
c リーマン・ショックからの回復を達成した現在、現代貨幣理論という確証性のない理論を提唱し始めていること。
d ある時代の経済状況を学問的見地から好況と判断するが、その後不況に陥ってしまう事態が繰り返されていること。
e 経済危機という嵐に何度襲われても、学問的な立場を堅持するために楽観的な見解を提示してしまっていること。

問10 傍線部F「複合危機」とあるが、筆者は「複合」の語をどのような意味で用いているか。その説明として最も適当なものを、

次のa～eの中から一つ選びなさい。

16

- a 実体経済の危機という外的要因と金融経済の危機という内的要因が複雑に絡み合っていること。
- b 資源危機という外的脅威に加えウイルスという健康に害をなす内的脅威に同時にさらされること。
- c 資本主義システムの外部から襲ってくる危機と内部に起因する危機とに共通点が存在すること。
- d 天候不順など自然がもたらす外因性の脅威に農業経済の打撃という内因性の脅威が合わさること。
- e 資本主義社会内部の危機にかぶさるように環境・資源・疫病のような外部的危機が起こること。

II 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

中南米に生息するチスイコウモリは、動物の血を三日間吸うことができなければ餓死してしまう。そんな彼らは、飢えて死にかけた仲間に自分の吸った血を^(ア)ハいて与えることがある。こんなことをすれば今度は自分が餓死する危険度が上がるのに、血縁関係がない相手をどうして救おうとするのだろうか。

これを説明するため打ち出されたのが、〈互惠的利他主義〉理論である。仲間を救っておけば、今度は自分が飢えたときに救ってもらえるという恩恵を当てにした行動なのだ。自己保存という利己的な目的のために、自分の身を犠牲にする利他的な行動を取るのである。

実際に、チスイコウモリはお互いに血を貸し借りすることが確認されている。以前に救った相手からお返しを受けることが、明らかに多いのである。

このような行動を取ることによって生存率が高まるので、進化の過程でこのような行動が定着したと考えられている。これが成り立つためには、仲間に血を与えないコウモリは救わないことが重要だ。一方的に自分だけが血をもらっていれば一時的には生存率が高まるので、放っておけばそんな自分勝手なコウモリだらけになって、結局は自分勝手なコウモリをも含めた全員の生存率が下がってしまう。ズルをするコウモリには〈罰〉を与えることにより、〈互惠的利他主義〉を保たなくてはならない。

^A最新の進化理論では、これが〈道徳感情〉の第一歩だというのである。

人間の場合は、他の生物とは比較にならないくらい、血縁者以外への利他的行動が多い。今後二度と逢^あうことはない、①のお返しは望みようもない相手にも親切にすることが^(イ)ヒンパンにある。

これは、人間は言葉や文化を持つので、単純な〈互惠的利他主義〉より遙^{はる}かに複雑なメカニズムである〈間接互惠性〉が働いていると考えられている。自分の評判を高めたりすることで、巡り巡って恩恵が返ってくるのである。

そうになると、互惠に反する行動を取る者への監視や罰は、それに見合うように複雑なメカニズムを備えるようになる。実際

に、人間は不正に敏感に反応することが各種の実験によって確かめられている。自分が直接被害を受けた場合でなくとも、さらに自分が損をしてさえ、不正を行う者を罰しようとするのが確認されるのだ。

たとえば、千円をAが分配してBが受け入れるか拒否するかという実験を行うとする。五〇〇円ずつなら当然Bは受け入れるが、Aが七五〇円以上でBが二五〇円以下という割合になるとほとんどが拒否する結果となる。拒否すると両者とも受け取りは0円なので、Bも損をするのだが、損をしても公正に反するAを罰しようとするのである。理屈ではなく、感情がそのような行動を人間に取らせるのである。

Bに拒否権はなく、第三者のCが手持ちの金を出すと不正なAがその三倍の罰金を払うという別の実験してみると、さらに興味深い結果となる。

i

まったく金を出さないC役もいるが、半数以上はそうするのである。

損をしてまで不正者に罰を与える瞬間の脳をスキャンすると、背側線条体という部分の活性が見られる。このような行動が、満足感を与えるように脳が反応しているのではないかというひとつの証拠である。

人間の場合は〈間接互惠性〉によって自己の生存率が高まるので、進化の過程でこのような行動と感情が定着したと考えられる。「市民の間に盛り上がる轟々たる空気」は、人類進化の結果だったのだ。

しかし、ここに大きな問題が^(ウ)ヒソんでいる。〈互惠的利他主義〉なら、この実験のように目の前で起こっていることなので報復は簡単だが、〈間接互惠性〉は目に見えない部分がほとんどなのでそう単純ではないのだ。〈評判〉というのは、記憶と言語によって広まるので、必ずしも正しくはないのである。

他の生物でも音声や匂いで信号を交わし合い、ときには意識的に嘘の情報を流すことさえあるが、I 人間の言語や文化活動はもつと複雑である。そのために、人間は因果関係の推論能力が発達した。

人間が他者の喜びや悲しみの原因を理解しようとするのは、良き行動をした者に報酬を与える〈間接互惠性〉のため。

II、どのような行動が他人を喜ばせて、将来の自分の報酬に繋がるかを知るためでもあろう。しかし、前述の実験など

を見ても、不正を発見して罰することへの比重が、進化上は大きいとも思われる。科学を発展させた人間の因果関係の推論能力

が、じつは人を罰するために備わった能力であるかもしれないのだ。本来、中立的なはずの「②」という言葉が、良い意味よりも、悪いことをすれば罰が当たるという意味で使われることのほうが多いのは示唆的ではある。

いずれにしても、〈共感〉は他者の喜びや悲しみの原因を理解するため、因果関係の推論のために、人間に備わった能力なのだろう。

しかし、どれほど発達しようが、因果関係の推論にはどうしても錯誤が混じることになる。むしろ、〈共感〉によって因果関係の推論が歪ゆがまされてしまうことさえある。

Ⅲ、冤罪えんざいが生まれてしまうわけだ。

アダム・スミスは二五〇年前に著した『道徳感情論』に於いて、一九七〇年代以降によく定説となったこれらの最新の進化生物学理論を完璧に先取りしている。さらに驚くべきことに、その遙か先まですでに到達しているのである。それが、〈公平な観察者〉だ。

自己の利害を超えた見地からのドウサツ力(エ)のことだが、それは〈世間の眼〉のことではない。その点で、同じく客観的に自己を見詰める意味ながら、観客の眼を意識している世阿弥の〈離見の見〉とは違う。

アダム・スミスはこの③ 的理論を説明するために冤罪を持ち出している。無実の罪で死刑となった人物は、死という恐ろしい運命よりも、誤った罪とともに己が記憶されることを怖おそれたと彼は説く。死刑ほど重大ではなくとも、誤解から非難を浴びるといふことは、我々の日常生活にもよくあることだ。それを気に病むのは、〈間接互惠性〉を成り立たせる〈評判〉に喜びを感じるように進化した人間感情の本性である。

しかし、アダム・スミスは、そこで世間に服従してしまうのは〈弱い人〉だと云う。世間の人々というのは間違えることも多いので、〈賢明な人〉は世間から受ける「賞賛や非難」そのものではなく、もっと本質的な「真に賞賛や非難に値するかどうか」を基準に行動すると云うのだ。

そのために、自己の利益だけではなく、他者の利益をも超越した、すべてを俯瞰ふかみして見る〈公平な観察者〉を自分の胸の裡うちに持つことが必要なのである。〈公平な観察者〉が「賞賛や非難に値するかどうか」を判断して、それに従って行動すべきなのである。

世間の人々の判定は一審にしか過ぎず、(公平な観察者)による二審のほうが上なので、(賢明な人)であるためには必ずその上級審に控訴しないとイケないとアダム・スミスは云うのだ。

(管賀江留郎『道徳感情はなぜ人を誤らせるのか 冤罪、虐殺、正しい心』による)

※現在は『冤罪と人類 道徳感情はなぜ人を誤らせるのか』とタイトルを改めて早川書房から文庫として刊行されている。

問1 傍線部(ア)～(エ)に該当する漢字を含むものを、次の各群の a～e の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

20

17

(ア) ハいて

17

- a 混合液をロウトでこす
- b 道に迷いトホウに暮れる
- c 偽らざる心情をトロする
- d 薬剤を皮膚にトフする
- e 友へのトシンにかられる

(イ) ヒンパン

18

- a ケイヒン工業地帯
- b ヒンコン問題への対策
- c 使用ヒンドの低い靴
- d ライヒンをもてなす
- e ジョウヒンな人物

(ウ)

ヒソ|んで

19

a 事情をセ|ン|サクする

b セン|メイに記憶する

c セン|レイを受ける

d セン|ブク期間を過ぎる

e 選手セ|ン|セイを行う

(エ)

ドウ|サツ

20

a 猫のドウ|コウが開く

b ジド|ウ書を編集する

c ドウ|メダルをもらう

d ドウ|クツを探検する

e ドウ|タイを損傷する

問2 傍線部A「最新の進化理論では、これが〈道德感情〉の第一歩だというのである」とあるが、筆者はどのようなことが言いたいのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

21

- a チスイコウモリの行う罰は安定した社会を保つための合理的な行動であり、人間の行動心理と共通する点があるということ。
- b チスイコウモリの行動は人間の損得を度外視した行動に比べると打算的な点が残っており、その分道德的な面が小さいということ。
- c 人間もチスイコウモリも自らの欲求を実現するために利他的な行動を取ることが多いが、チスイコウモリはその範囲が欲求に応じて狭いということ。
- d 人間は恩恵の有無に限らず利他的な行動を取るのに対し、チスイコウモリの利他的な行動の背後には必ず恩恵の存在があるということ。
- e チスイコウモリの行動は他者への罰を前提としているのに対し、人間の行動は他者への正義を前提としている点で優位性を持っているということ。

問3

空欄

22

①

③

に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| e | d | c | b | a |
| ① | ① | ① | ① | ① |
| 将来 | 将来 | 直接 | 将来 | 直接 |
| ② | ② | ② | ② | ② |
| 因果応報 | 弱肉強食 | 弱肉強食 | 弱肉強食 | 因果応報 |
| ③ | ③ | ③ | ③ | ③ |
| 伝統 | 画期 | 画期 | 伝統 | 画期 |

問4 空欄

i

に入る文として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

23

- a Cは自分の評判を高めるために、Bを救い出すべく手持ちの金を差し出すのだが、この時にCの中では間接互恵性が働いていたと考えることができる。
- b CはAに対して公正な分配を促したうえで、それが果たされない場合に罰金を課すことをAに忠告して公正性を保とうとしたのである。
- c Cは後にAから復讐ふくしゅうを受けるリスクはあるが、Bによって助けられることを見越して、損をしても手持ちの金を出すという行動を取るのである。
- d Cは「拒否権がない」というBの置かれた不公平な立場に同情し、AよりもBの方の分配金が高くなるように自ら直接金を提供するのだ。
- e Cは自分が直接被害を受けたわけでもなく、金を出すと損をするだけなのに、割合が不公正なほど高い金額を出して、不公正な者を罰しようとする。

問5 傍線部B・Cの意味として最も適当なものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

B

24

・ C

25

B

曇々たるどんどん

a 集団で非難するような

24

b 怒りを内に秘めているような

c 始終張りつめているような

d 時があつという間に過ぎていくような

e 大きな音が響きわたるような

C

示唆

a ほのめかしている

25

b 考えの助けとなる

c 思いもよらない

d はつきりしている

e 検討に値する

問6

空欄

I

III

に入る言葉として最も適当なものを、次の各群の a～e の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

い。I

26

・II

27

・III

28

- | | | | | | | | | | | |
|-----|---|-------|---|------|---|-----|---|------|---|------|
| I | a | したがって | b | ゆえに | c | やはり | d | ところで | e | もしくは |
| II | a | 同じく | b | なぜなら | c | また | d | けれども | e | さながら |
| III | a | さらに | b | ただし | c | しかし | d | そこで | e | もつとも |

問7

傍線部 D「その遙か先まですでに到達しているのである」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なもの、次の a～e の中から一つ選びなさい。

29

- a アダム・スミスは、共感が原因を理解するために備わった能力である間接互惠性の概念を知っていたことに加え、そうした能力に限界があることまで指摘していた点で、最新の理論を越えた議論を行っていたということ。
- b アダム・スミスは、人間が物事に対して誤った判断をしかねないという性質を理解していたのに留まらず、正しく判断するために他者の考えに左右されずに判断する道を探っていた点で、先進的な議論を行っていたということ。
- c アダム・スミスは、不正の発見やそれを罰することに満足感を持つ人間の本質を見抜くだけでなく、そうした人間に負いせず真実にたどり着くための作法を説いたという点で、具体的な解決策にまで踏み込んでいたということ。
- d アダム・スミスは、評判を気にする人間が真実から遠のいてしまう弱さを最初に見抜いた最新理論が提唱される以前に、そのような弱さを気にすることなく真実に忠実である者を理想の人間とした点で、先進的だったということ。
- e アダム・スミスは、人間の推論能力に誤りがある可能性を見抜いていたということに留まらず、冤罪を犯すリスクを考慮して上級審に控訴することの必要性を説いていたという点で、議論を法律学にまで発展させたということ。

問8 本文の読後に五人の生徒が人間の行動について意見を述べている。波線を付した語について、本文の趣旨とは異なる理解をしているものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

30

- a 生徒A―電車の中でご老人が座れずにいたんだ。自分もその時疲れていたんだけど、隣席の男性からのプレッシャーを感じて席を譲ってあげたよ。これって〈間接互惠性〉に基づく行動なのかな。
- b 生徒B―その通りだと思う。そのご老人に二度と逢う可能性は低いし、Aさんはその時一人だったのだから、決して自分の〈評判〉を気にしてのことじゃないんだから。
- c 生徒C―私は、「今度は譲ってもらえるかな」なんて考えて、一緒にいる友人に席を譲ってあげることはあるけど。〈互惠的利他主義〉に留まっているってことかな。
- d 生徒D―私は席を譲ること自体に抵抗感はないんだけど、感謝されたいとか、冷たい人だと思われたくないというのが動機になっている〈弱い人〉なのかもしれない。
- e 生徒E―この場合に、「真に賞賛や非難に値するかどうか」を基準に行動したらどうなるんだろう。これを判断する〈公平な観察者〉を自分の胸の裡に持つのはとても難しいよ。

注 意 事 項 続 き

4 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。マークは**HB・B**の鉛筆(シャープペンシル可)で濃くマークしなさい。解答用紙を折ったり曲げたりしてはならない。

例えば

2


 と表示のある問に対して **c** と解答する場合は、次の(例)のようにマークシートの**2**の**解答欄**の**c**に**マーク**しなさい。

指定欄以外へマークした場合は解答が読み取れなくなる場合があるため、記入しないこと。訂正は、消しゴムできれいに消すこと。

(例)

解答 番号	解答欄				
	a	b	c	d	e
1	(a)	●	(c)	(d)	(e)
2	(a)	(b)	●	(d)	(e)

(マークの仕方)

良い例	悪い例
●	

5 試験終了後には、問題冊子の上に解答用紙を裏返して置きなさい。解答用紙の回収後は監督者の指示に従うこと。

6 問題冊子は持ち帰ること。